

未来を創る 親子読書

参加費
無料

AI との共存社会に向けて

読書について

来るAI時代、なぜ「読書」が必要なのか？

知っているようで知らない「読書の重要性」に加え、親から子どもに対するアプローチ方法、夏休みの読書感想文を通した子どもへ正しい親のあり方とは。私たち保護者は家庭でどのように取り組むべきか。

2019年 **7/14** 日

14:00 開演 (13:30～受付開始)

16:00 終了予定

当日参加
OK

定員
400名

ベビーカー
OK

場所

明治大学
リバティータワー1階 リバティーホール
東京都千代田区神田駿河台 1-1

- JR 中央線・総武線/御茶ノ水駅 徒歩約 3 分
- 東京メトロ丸ノ内線/御茶ノ水駅 徒歩約 3 分
- 東京メトロ千代田線/新御茶ノ水駅 徒歩約 5 分
- 都営地下鉄三田線・新宿線、東京メトロ半蔵門線 神保町駅 徒歩約 5 分



申込方法

本イベントは多数の参加が予想されます。事前申込いただくと、当日優先的にご案内させていただきます。右のQRコードを読み取り、申込フォームよりお申し込みください。
<URL> <https://forms.gle/pJhiTvix3LhX6M4X6>



次世代を生き抜く子供たちにとって 必要なこととはなんだろう

AIを象徴的なキーワードとして、時代の変化と共に次世代を生き抜く子どもたちが学ぶべきことも変化しています。英・オックスフォード大学のマイケル・A・オズボーン准教授によるとAIの進化によって無くならない仕事の特徴として創造性や社会性を有するものを挙げられています。これらの能力に関しては、読書が影響することが多くの研究で示されているのはご存知でしょうか。今回は、子育て世代の保護者の方々に向けて貴重な講師の方々をお招きして開催いたします。

講師

高濱 正伸 氏 花まる学習会 代表

1959年熊本県大津市生まれ。県立熊本高校卒業後、東京大学へ入学。東京大学農学部卒、同大学院農学系研究科修士課程修了。算数オリンピック委員会理事。1993年、「この国は自立できない大人を量産している」という問題意識から、「メシが食える大人に育てる」という理念のもと、「作文」「読書」「思考力」「野外体験」を軸にすえた学習塾「花まる学習会」を設立。1995年には、小学校4年生から中学3年生を対象とした進学塾「スクールFC」を設立。チラシなし、口コミだけで、母親たちが場所探しから会員集めまでしてくれる形で広がり、当初20名だった会員数は、23年目で20000人を超す。また、同会が主催する野外体験企画であるサマースクールや雪国スクールは大変好評で、延べ50000人を引率した実績がある。



© 澤谷写真事務所



大竹 稯 氏 思想家、作家 株式会社禅鯉館 代表取締役、産経子供ニュース編集顧問

1970年愛知県生まれ。旭丘高校から東京大学理科三類に入学するも、医学に疑問を感じ退学。その後、私塾を始める。現場で授かった問題を練磨するために、再び東大に入学し、そこでフランス思想を研究しながら、禅の実践を始める。お寺で哲学する教室を開きながら、共生問題と死の問題に挑んでいる。2015年より著書「読書感想文ドリル」を5年連続で発刊中。

facebook : <https://www.facebook.com/profile.php?id=100005186298416>

内容

読書の重要性だけでなく、具体的に家庭でどのように取り組むべきかお伝えいたします。

第1部	【オープニングムービー】 読む力は生き抜く力
第2部	【講演】高濱正伸氏「メシが食える大人になる読書の重要性」
第3部	【パネルディスカッション】高濱正伸氏 × 神田一橋中学校 × 東京青年会議所千代田区委員会
第4部	【講演】大竹稯氏「読書感想文を通した保護者のアプローチ」
第5部	【提言】東京青年会議所千代田区委員会

主催

公益社団法人東京青年会議所 千代田区委員会 TEL.03-5276-6161
〒102-0093 東京都千代田区平河町2丁目14-3 FAX.03-5276-6160
<https://tokyo-jc.or.jp/>

後援

千代田区

協力

千代田区教育委員会・千代田区立千代田図書館・千代田区立神田一橋中学校

